



ART

for Human Possibilities

Yamaha 2030 Vision



長期ビジョンの発表にあたって

これから世界では、人々の価値観が多様化し、地球環境や社会を取り巻く課題はますます深刻かつ複雑になっていくと考えられます。社会の変化に対応するため、パリ協定やSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成に向けた取り組みが進められており、企業は長期的な展望に立って事業を変革し、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献することが求められています。こうした中で、ヤマハ発動機は、2030年に向けた長期ビジョン「ART for Human Possibilities」を策定しました。「Advancing Robotics(ロボティクスの活用)」、「Rethinking Solution(ヤマハらしいソリューション)」、「Transforming Mobility(モビリティの変革)」の3テーマに注力し、既存事業の成長と新規事業の開発に取り組んでいきます。

結
Ties

発
Innovation

感動
Kando

悦
Excitement

魅
Emotion

Revs Your Heart

信
Confidence

ヤマハは、ブランドを構成する3つの階層を定めています。『感動創造企業』という企業目的を頂点とし、第2層にブランドスローガン、第3層にヤマハらしさとその5つの要素があります。ブランドスローガン“Revs your Heart (レヴズ ユア ハート)”は、私たち一人ひとりが想いを共に行動し、人々に感動体験をお届けするという企業目的を達成するための指針です。そして、どんなときにもお客様にヤマハならではの価値を感じていただくために、私たちは『発、悦、信、魅、結』という5つの要素でヤマハらしさを極めていきます。

創業以来、ヤマハは技術と感性を融合し、 新しい価値を創造して成長してきました

これまでも、これからも、私たちの使命は、人々の感性を刺激して生活の質を高めていくことです。ヤマハの発展はすべて、この理想を実現できるかどうかにかかっています。当社の歴史の中には数々のステップがあり、モーターサイクル、マリン製品、その他の製品を生み出してきました。私たちは未来を見据え、生活を豊かにする新たな方法を今後も探求していきます。私たちには多くの経験とリソースがあり、原点にはARTがあります。これらを知的技術と組み合わせることで、これまでになかった可能性を見出していきます。



1887

REED ORGAN
国産初のリード・オルガン

1955

YA-1
モーターサイクル事業を開始

1960

CAT-21
FRPレジャー用ボート事業を開始、マリンレジャーの楽しさを提供

P-7

船外機事業を開始、漁業の効率化とマリンレジャーの普及に貢献

1987

YM4600S
サーフェスマウンター第1号機を発売、工場における手作業の軽減に寄与

R-50

無人ヘリコプター事業を開始、農作業における手作業の軽減と効率を向上

1993

PAS
電動アシスト自転車事業を開始、快適で環境に優しいパーソナルコンピューターを提供

2010

Clean Water Supply System
浄水装置事業を開始、新興国において安全性の高い清浄な水を提供し生活をサポート

2014

TRICITY
快適、楽しさを提供するLMW（リーニング・マルチ・ホイール）製品

2017

CELL HANDLER™
CELL HANDLER™を発売、メディカル分野で手作業の軽減と新薬開発の迅速化のソリューションを提供

2030

MOTORiD

制御の強化による「意のままの操作」「アクティブセーフティ」など先進的なコンセプト

より充実した人生を追い求める人々と、 感動でつながる

ヤマハのあらゆる活動は、変わる事のない普遍的価値 — 「感動」がベースとなっています。感動とは、世界の人々の生活を豊かに彩る、無限の高揚感と深い充足感です。私たちは、誇りある歴史の中で、作曲家による完璧な楽曲作りと演奏者による豊かな感情表現が響き合うような感動を生みだし続けてきました。それを「The Art of Engineering (エンジニアリングのART)」と呼んでいます。

これを受け継ぎ、ヤマハの製品やサービスは、機能的価値と情緒的価値を共に具現化しています。そこに、私たちがつねに人に寄り添い、人の秘めた可能性を解き放ち高めていくパートナーになれる理由があります。人は、何かを発見して、充足を得たいという基本的な欲求をもっています。同時に環境に責任をもった行動をしたいというニーズもあります。私たちは、こうした基本原則をロボット工学や知的技術に適用していくことで、人々の生活の質をこれまで以上に高めていくことができると考えています。

私たちは、社会の課題に革新的なソリューションで応えることにより、人々との間に生涯にわたる深い関係を築くこと、つまりパートナーとして大きな信用を得ることを目指します。

モビリティとは、目的地に着くことだけを指すものではありません。それは、目的地までの旅を楽しみ、人生を満喫すること。ほんの小さなことが、大きな満足へと加速していく。この考え方を一言で表現したのが、ブランドスローガンの“Revs your Heart”です。

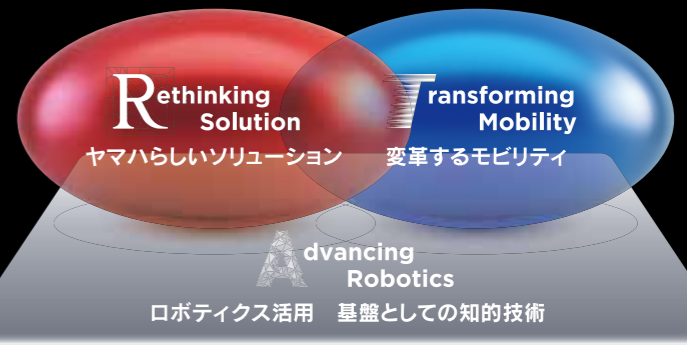
ARTに関わるメーカーという起源が、これまで想像もできなかったような可能性の創造へと駆りたてる原動力です。私たちはロボティクスを活用し (Advancing Robotics)、社会の課題にヤマハらしく取り組み (Rethinking Solution)、モビリティに変革をもたらす (Transforming Mobility) ことで、人間の可能性を拓き、より良い社会と生活の実現を目指す。「ART for Human Possibilities」には、こうした想いが込められています。「ART」は、2030年に向けた3つのテーマの頭文字でできています。

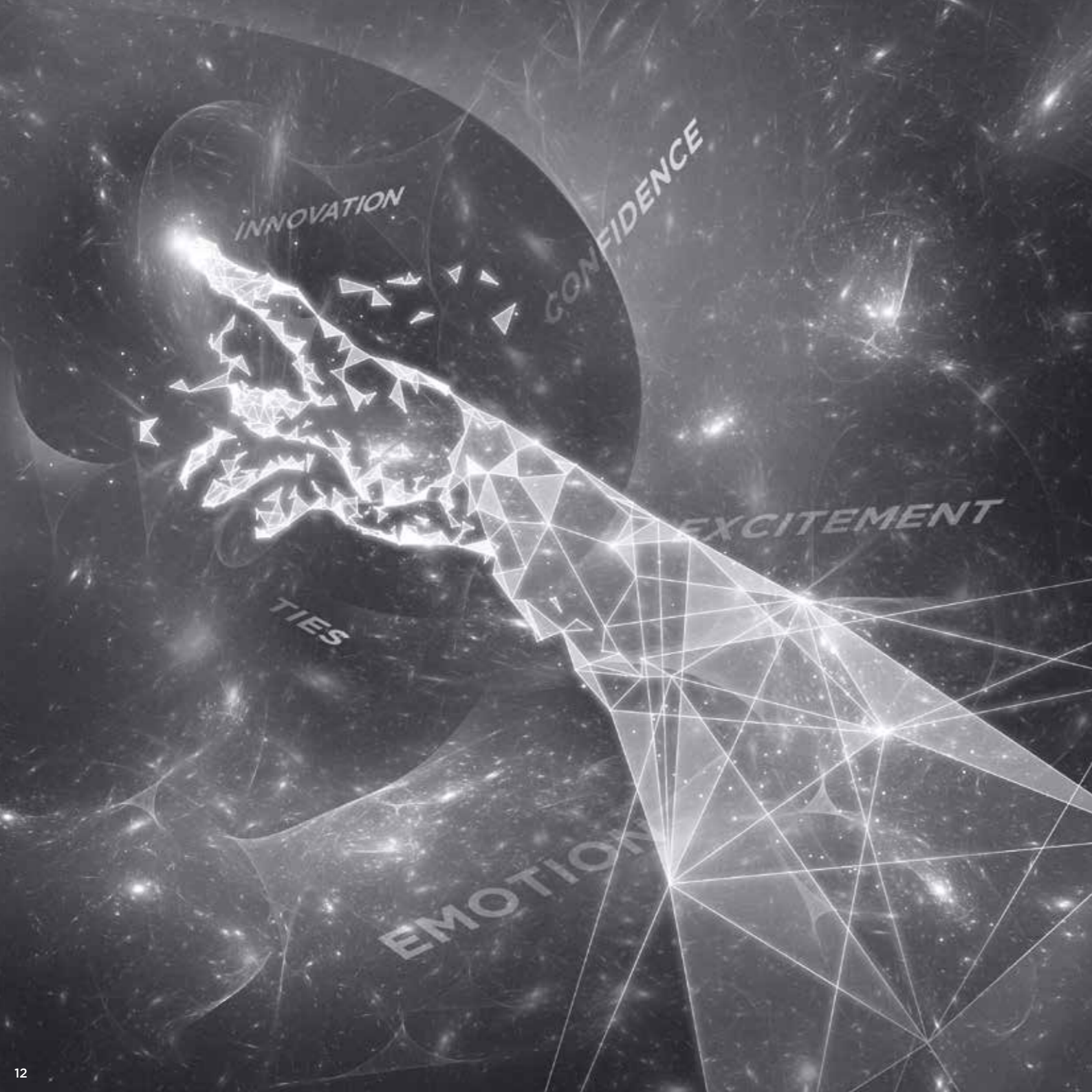


ART

for Human Possibilities

2030年に向けた長期ビジョンのスローガン
ART for Human Possibilities。
ヤマハを新たなフェーズに導き、世界中の人々の生活が
より豊かになるようサポートしていきます。





We Will Change the Way We Live



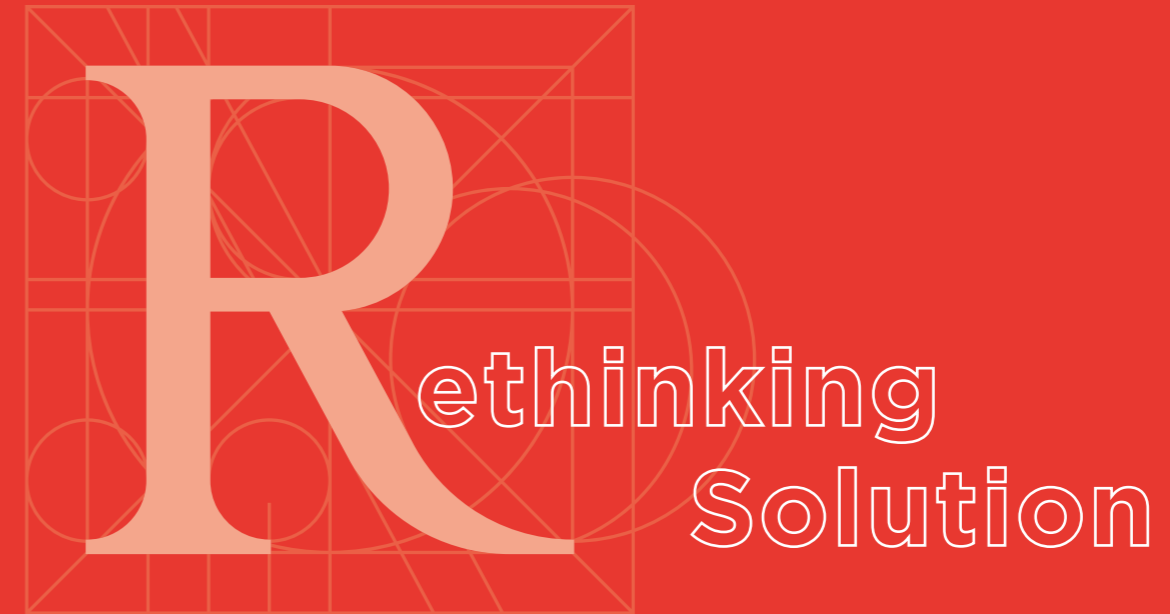
Advancing Robotics

人々の生活を変えていく

人間はまだまだ大きな可能性を秘めています。しかしその一方で、近い将来に直面する課題の多くに対しては、既存の技術からのイノベーションが必要です。ヤマハは知的技術を活用して、先進のロボット工学や、それらがもたらすブレイクスルーを応用した新たな手法を開発。人々と社会のニーズを満たし、お客様との間に強い絆を築いていきます。ロボット工学は私たちのあらゆる活動の鍵であり、人による操作をサポートし、快適性を高めます。



We Will Change the Way We See the World



世界の捉え方を変えていく

世界が変化し社会が進化するにつれて、私たちが直面する問題もますます多様化しています。既存の技術やアイデアがベースでは、もはや将来のニーズを十分に予測できません。私たちは立ち止まることなく、生活を向上させ、感動を生み出すソリューションに取り組んでいきます。



We Will Change the Way We Move

T ransforming Mobility

移動の方法を変えていく

将来世代が直面する最大の課題の一つがモビリティです。一方、モビリティがもたらす自由や喜びは、どの社会でも必要とされるでしょう。私たちは、パーソナルスケールモビリティを通じて生活の様々な状況に役立つソリューションを提供し、シームレスな移動の実現に取り組んでいます。そして、Revs your Heartを可能にする人間の自然な動きにフォーカスしています。



ART for 2030

技術と感性を組み合わせ、 人々の可能性を拓ける

2030年までに、私たちは何を達成しているのでしょうか？ここでは、長期ビジョンARTをどのように実現するかヒントとなる、現在進行中の事例をご紹介します。

マリン事業では、自動操縦装置、衝突防止機能、自己診断機能、その他の操縦支援技術を開発する一方で、初心者向けの操舵技術にも取り組んでいます。より安全で快適なマリンライフを提供していきます。

先進国では、自動操縦ドローンによる監視・農薬散布装置を利用して手作業を削減し、生産性を向上させることにより、食料の安定供給に貢献しています。また危険作業の低減も目指します。

低速走行車両のみならず、電動アシスト自転車や電動車いすといった低速モビリティにも着目し、街づくりに貢献しています。

CELL HANDLER™は、医薬品開発の様々なステップで研究者の負担を軽減し、生産性や創薬成功率の向上に役立っています。

これまでに、電動化、さらにはMOTOBOTロボットに最初に導入されたような制御技術や、快適性を高めるLMW(リーニング・マルチ・ホイール)などを開発してきました。地上移動と海上移動の技術を組み合わせることで、社会の課題の解決に貢献しています。当社のパワートレイン、制御技術、車体・艇体技術の進展は、排出ガスを抑制し温室効果ガスの管理を推進する一方で、社会的インフラの進歩をもたらす自動運転技術の開発につながります。

これらは、将来に向けて広がっていくアイデアのほんの一握りにすぎません。ともに取り組み、考えることによって、さらに多くのアイデアを得て長期ビジョンARTの成功につなげていきましょう。

We Want to Create a Better World That Enhances the Way We Live

より良い生き方ができる、より良い世界を

これまで想像もしなかったものを作りたいという深い願望を源泉に、これからも私たちは、世界の人々のより良い生活を追求していきます。斬新で楽しい製品、技術、サービスを開発する際に、この目標を拠りどころにすることで、今日も明日もその先も集中力と意欲を維持していけるでしょう。そしてこれが、私たちを「ヤマハラしさ」「真のヤマハ」へと駆り立てるのです。





自分の仕事を愛そう

私は、当社での仕事は、ただの仕事というよりも、自分がやりたいことの延長ととらえています。風を感じ、自由や喜びを味わいつつ、自分らしくあること。人として成長していると感じると同時に、世界中の人々の幸せに貢献していると思えること。自分が社会のために良いことをしていると確信できること。こうした想いは、私たちの先輩方が培ってきたものであり、私たちも抱き続けています。この想いを共有することで、私たちは一つのチームになるのです。

私がヤマハに入社したのは、ヤマハブランドが提供してくれるものが、大好きだったからです。みなさんにもそうあって欲しいと思っています。当社が次の発展ステージに差し掛かっている今、私たちは新たな入り口にいることを認識して、ARTを理解する必要があります。私はみなさんに、自分はヤマハの何に魅せられているのかを自問自答し、その想いを共有して前進する力にさせていただきたいと思います。それは、素晴らしい製品を生みだし、私たちにとって素晴らしい経験に繋がると考えます。夢を見続け、前進し続け、感動を創り続けましょう！

代表取締役社長

日高 祥博